

日本聾話学校の教育と 聴覚障がい児教育の展望

私立 日本聾話学校

佐々木 勝

2019年5月9日(月)

日本聾話学校の教育の特徴

- 個を大切にする教育
- 聴覚障がい児が自ら、聴きたい、話したい、歌いたいという
思いを育てる教育
- 聴覚障がい乳幼児とそのご両親の愛情豊かな関係を
築く教育（早期教育）

個を大切にする教育



聴覚障がい児が自ら、聴きたい、話したい、歌いたいという思いを育てる教育



聴覚障がい乳幼児とそのご両親の愛情豊かな 関係を築く教育（早期教育）



初めて補聴器を付ける日

新生児聴覚スクリーニングで難聴が見つかる。

ライシャワ・クレーマ学園入園

生後5か月で補聴器装用



お耳の誕生日

この子にとって音の世界、ことばの世界の扉が開いた時

ここから、日本聾話学校の教育がスタートをします

ご両親の笑顔が、子どもの成長への栄養です

児童・生徒の歌声

チャリティー映画会より



日本聾話学校の子どもの姿から

子ども達は環境の中で育つ

↓(どのような環境?)

○愛と信頼の関係で育つ環境
～心を聞きあう関係～

○ことばをことばとして聴ける補聴環境

愛と信頼の関係で育つ環境 ～心を聞きあう関係～

- 赤ちゃんの頃からの親との愛着関係と基本的信頼関係(乳幼時期)
- 先生やお友達との信頼関係(幼時期)
- 本当の意味で多くの人と学び合える関係(学童期から思春期)



自己肯定感が育つ

子どもの聴きたい、話したい、歌いたい

ことばをことばとして聴ける補聴環境

- オーディオロジー部を中心とした補聴機器環境の整備
- 聴覚の可能性を信じる親や教師、オーディオロジー部の存在
- 個に応じた教育環境

願い

『聴覚の可能性』が広がる中で、聴覚を使って生きるという生き方の選択ができる社会の実現

- 新生児聴覚スクリーニングで難聴が発見されてからの医療・療育・教育・行政の連携
- ご両親が安心して子と向き合える子育て支援
- 個に応じた教育
- 少人数による教育
- 1対1の対話を通して、子どもの思いを受けとめる関係

可能性は空の極みまで

大嶋 功 元校長のことば

保護者の声(その1)

0歳児の母

産院で退院前日に先生から「新生児聴覚スクリーニング検査が再検査になった」「羊水が耳に入っていて検査に引っかかることはよくある」と言われたときには、「そういうものなのか・・・」としか思っていませんでした。病室に戻り、新生児聴覚スクリーニング検査についてインターネットで調べると頭が真っ白になりました。そして、妊娠中、食生活を気にしなかったことや、風疹の予防注射を受けなかったこと、出産予定日前まで仕事を続けたこと、兄のことを理由に我が子のことを気に掛ける余裕がなかったことなどが思い浮かんできて、後悔の念でいっぱい自分を責めました。

退院後、大きな音がしても無反応な我が子の姿を見るたびに、「やっぱり聞こえていないのかもしれない」と不安が募っていきました。1か月後、精密検査で「難聴」と診断されると、不安は焦りに変わりました。「この子が幸せに生活していくために必要なことは何か」を日々考えていく中で、ライシャワ・クレーマ学園と出会い、通うことを決めました。

通い始めて3か月。変化があったのは私自身だと思います。“難聴の我が子”という事実で自分自身を追い込んでしまっていて、何も悪くない兄をないがしろにしていたことに気づかせて頂き、“子育ての楽しさ”を改めて教えて下さった学園の先生方には感謝の気持ちでいっぱいです。我が子が普通に聞こえていないという現実には、まだまだ心が折れそうになると思いますこともありますが、子ども達と共に成長していきたいと思っています。

保護者の声(その2)

1歳児の母

この1年とても成長を感じられる年になりました。行動面では、洋服も少しずつですが自分で着られるようになったり、ご飯も自分で食べられるようになりました。自我も少しずつ芽生え、個別では自分がやりたくないものは「イヤ」と頑なに否定したり、やりたいことは率先して動く姿は本当に面白いです。今までは一人で遊ぶことがメインだった我が子は、最近ではお友達と手を繋いでホールまで行ったりと、社会性の面でもとても成長

したと思います。自分より小さい子には、「アカチャン」と言って、いい子いい子と頭を撫でて触れ合うようになりました。ことばの面では、まず一つに一番に言って欲しかった《ママ》を言ってくれるようになりました。それから少しずつ単語が増えてきておしゃべりができるようになりました。中々自分が最初に言った言い方を変えてくれない性格なので大変ですが……。でも私が言ったことを真似して繰り返したりしてくれるのでとても嬉しいです。

保護者の声(その3)

2歳児の母

今年度は我が子の伝えたいという気持ちがあふれ出してきた1年でした。言葉が出て気持ちに追いついてきているようで、やりたいことや嫌なことをきちんとことばで伝えられるようになってきました。1年近くずっと補聴器や人工内耳を付けるのを嫌がっていましたが、最近は朝起きてくるとお話しがしたいのか自分から「オミミツケテー」と言ってくるようになりました。夜に「お風呂入るよー」と声を掛けると「イヤダ、オフロハイラナイ！」ときちんと自分の意思をことばで伝えられるようになったことは大きな成長した所です。特にここ2か月の間にしゃべることへの意欲が感じられ、我が子と話せることの喜びを感じています。